

2009 SUPER GT 第5戦 菅生

◇◆◇決勝レースは、不安定な天気に翻弄され 厳しい展開に◇◆◇

■2009年7月25～26日

■宮城県・スポーツランドSUGO

■No.24 HIS ADVAN KONDO GT-R 予選：3位 / 決勝：13位

◆7月25日 予選

【最重量マシンながら、予選3番手を獲得！】

第4戦セパンからほぼ1ヶ月のインターバルで迎えた第5戦。

今シーズンのSUPER GTにおいて、今回はちょうど折り返し戦にあたる。

舞台は、杜の都・仙台に位置するスポーツランドSUGO。

SUPER GTが開催される全国のサーキットで最北端に位置するも、

好天になると暑さに 厳しい戦いになることが多い。

今回も、土曜は強い日差しが照りつけ、じりじりとした暑さがサーキットを包み込んだ。

現時点で、No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rはランキングトップを堅持。

だが、1204kgという最重量マシンでの菅生の戦いは容易ではない。

アップダウンが多いことが、ボディブローのように響いてくるからだ。

チームでは早速午前の公式練習でマシンを入念にチェック。

気温30℃、路面温度は34℃を超える暑さの中、周回を重ね、

セットアップや予選、決勝時に装着するタイヤ選択などのメニューを次々こなした。

予選1回目は、午後1時35分にスタート。先の練習走行では、8番手につけていた

No.24 HIS ADVAN KONDO GT-R。1列でも前からスタートを切ためには、

上位8台に入り、スーパーラップへの進出が必須条件となる。

午前のセッションよりも、気温、路面温度ともに気持ち低くなったが、

まぶしい太陽の光が暑さを増長させる。

そんな中、まずは荒がコースインし、インターバルの間に微調整を加えたクルマの確認を行った。

その後、再度調整を済ませ、今度はJ・P・デ・オリベイラ選手がコースイン。

クルマの確認を済ませ、一旦ピットへとマシンを戻した。

GT500の専有走行が始まると、気温は32度、路面温度は42℃まで上昇。
アタッカーのオリベイラ選手は、ライバルたちよりやや早めのタイミングで
ベストタイムとなる1'17.555のタイムをマーク。
4番手で予選1回目を終了し、見事スーパーラップ進出を決めた。

スーパーラップは午後4時15分からスタート。5番目にコースインしたオリベイラ
選手。
先にアタックしたライバル達のベストタイムを、各セクターで上回って
1'17.232のベストタイムをマーク。予選1回目よりさらに自己ベストタイムを削っ
た上に、
暫定トップに立つ活躍を見せた。

その後、3チームがアタック。惜しくも2台がオリベイラ選手のタイムを上回った
が、
最終的にNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rは3番手でスーパーラップを終了。
申し分のない位置から、決勝スタートを迎えることとなった。

◇ドライバーコメント◇

朝の練習走行は主にJP（・デ・オリベイラ）がドライブしました。僕は終盤のみ
乗って、クルマとタイヤの確認をしました。今回のクルマは、持ち込みの段階から
乗りやすい状態でした。ウェイトは重いですが、うまくまとめ上げていると思いま
す。
予選1回目のときに、再度クルマのセットアップについてアドバイスしたのです
が、
それがいい方向に働いたようです。タイムアップもできたし、JPも乗りやすくなっ
た
といってくれました。明日は天気がどうなるかわからない状態ですが、
晴れたら晴れたで、雨になったら雨で、それぞれのコンディションに合わせて
て、
最大限にパフォーマンスを引き出せるといいなと思います。

◇監督コメント◇

いい流れで予選を戦うことができました。安心してみていただけますね。チームの中
で、
誰がなにをすべきかしっかりとわかっている状態なので、レースに関しては、
何の心配もしていません。ウェイトは十分に思いですが、明日のレースでは
いい走りを見せてくれると思います。期待して欲しいですね。

◆7月26日 決勝

【決勝開始後の降雨。波乱が続く展開の中、13位で終了】

日曜の朝。サーキットはまぶしい夏の日差しが先行。

午前9時45分から30分間行われたフリー走行は、湿度も高く、うだるような暑さだった。

前日夜半、激しい雷鳴があったことなど、まったく感じさせない。

セッションでは、決勝用のセット確認を繰り返し、レースに向けてあらゆる対応策が

とれるよう、丁寧な準備作業を行った。

午後2時からのレースを前に、ダミーグリッドでは車両が整列。多くの観客を迎えた。

この時点でまだ青空が見えたサーキットだが、最終コーナー奥には灰色の雲。

まさに雲行き怪しい天気の中、レースのスタートが切られ、

その後、不安要素が的中する展開となる。

No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rのスタートドライバーであるオリベイラ選手は、

まずポジションキープで周回を重ねていく。前のNo.3 GT-Rとは僅差の戦いだったが、

20周目の1コーナーでタイミングを見計らい、一気に逆転！

2番手で周回を重ねていくこととなった。

レース開始から40分弱が過ぎ、雨雲があたり一面に広がってくる。

そしてついに上空からポツリポツリと雨が…。

チームでは、すでにレース周回数の3分の1を終えていた

オリベイラ選手をピットインさせ、レインタイヤへ交換することを決める。

スリックタイヤのまま周回を重ねるライバル達のラップタイムが落ち始める中、レインタイヤへと交換してコースに向った荒。

タイヤに熱が入れば、ペースアップし、ポジションアップのチャンスが訪れる…。

そう願ったチーム、ドライバーだったが、実際にはラップタイムが伸び悩むことに。

雨の菅生を得意とする荒は、あらん限りの力を振り絞り、懸命に走行を続けたが、後にピットインしてレインタイヤを装着したライバル達がさらにペースを上げていく。

さらに一時は土砂降りとなった雨が、小康状態になって次第に路面も乾き始める。実のところ、これより先に一度ピットイン、新しいレインタイヤでの走行を続けていたが、
チームは3度目のピットインを決意。スリックタイヤに交換し、チェッカーを目指した。

健闘むなしく、13位でレースを終えたNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-R。
厳しい戦いを余儀なくされたが、その一方で今後を見据えた走行メニューに着手。データ取りを重ねることで、後半戦に向けて、さらに引き出しを増やす努力を続けた。

◇ドライバーコメント◇

厳しい戦いでした。今回のような難しいコンディションになると思うような走りができず、結果的にチームとしてまだやらなければならないことが明確になりました。

とにかく全開で走ってもペースが上がる状態ではありませんでした。

個人的には雨の菅生は得意なのですが、その力を発揮することもできずに終わりました。満足のいくペースで走ることができず残念です。

この先、同じような展開になったとき、きちんと対応できるよう、さらに考えてレースに挑んでいく必要があると思います。今回の結果を前向きに捉え、これからもっと強くなれるよう頑張ります。

◇監督コメント◇

やることすべてがうまく作用しないレースになってしまいました。

監督としてはピットインさせるタイミングが早すぎたことに責任を感じています。

また、選択したタイヤもうまく合わなかった。今回は作戦ミスでした。

後半は、遅いタイムでただ周回を重ねるよりは、と思い、タイヤを交換してデータ取りを

しました。結果は残りませんでしたが、次につなげることができると思います。